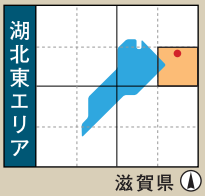
史跡
国指定

北畠具行墓（きたばたけともゆきのはか）

山東町柏原　昭和5年11月19日指定



北畠具行は、後醍醐天皇の忠臣で、元弘の乱に際し幕府軍に捕縛され、鎌倉に護送される途中、近江柏原の地で斬首されました。この時、ばさら大名として名高い近江守護京極導誉が、具行の人格に打たれ幕府に助命嘆願した話は有名です。具行墓は、斬首の地に静かにたたずみ、時の移ろいを伝えます。

当時のできごと	
1331年	楠正成挙兵
1332年	護良親皇　吉野で挙兵
1333年	新田義貞の攻撃で鎌倉幕府滅亡

北畠具行（1290～1332）

北畠具行は、鎌倉時代後期の公卿で、後醍醐天皇の抜擢を受け、嘉暦元年（1326）に参議に、元徳元年（1329）に権中納言に、元弘元年（1331)には従二位に昇進します。『太平記』には「朝夕拝礼不怠、昼夜ノ勤厚異于也……君ノ恩寵モ深カカリキ」と記されています。正中の変（1324）で倒幕に失敗した後醍醐天皇は、元弘元年（1331）再び倒幕を志し、大和の笠置寺にこもり、幕府軍と戦います（元弘の乱）。緒戦は善戦しますが、関東から派遣された大軍の前に敗れてしまいます。そして、天皇は隠岐に流され、具行を始め数十名が捕らえられ、京に送られました。

具行と導誉

京極導誉は、当時の近江守護で、幕府御家人として活躍した有力者でした。元弘2年（1332）具行は天皇の重臣として導誉に預けられ、京都から鎌倉に護送されますが、具行の人格に打たれた導誉は、幕府に対し斬罪の赦免交渉を行います。しかし、そのかいもなく、途中、導誉の本拠地柏原の地で、幕府の命により斬首されます。享年43歳でした。

護送途中に逢坂の関で詠んだ歌や、柏原での導誉との問答などの死の前後の様子は、『増鏡』や『太平記』に詳しく記載されています。『太平記』には、「逍遙生死、四十二年、山河一革、天地洞然」の辞世の頌（しょう）が載っています。



北畠具行墓

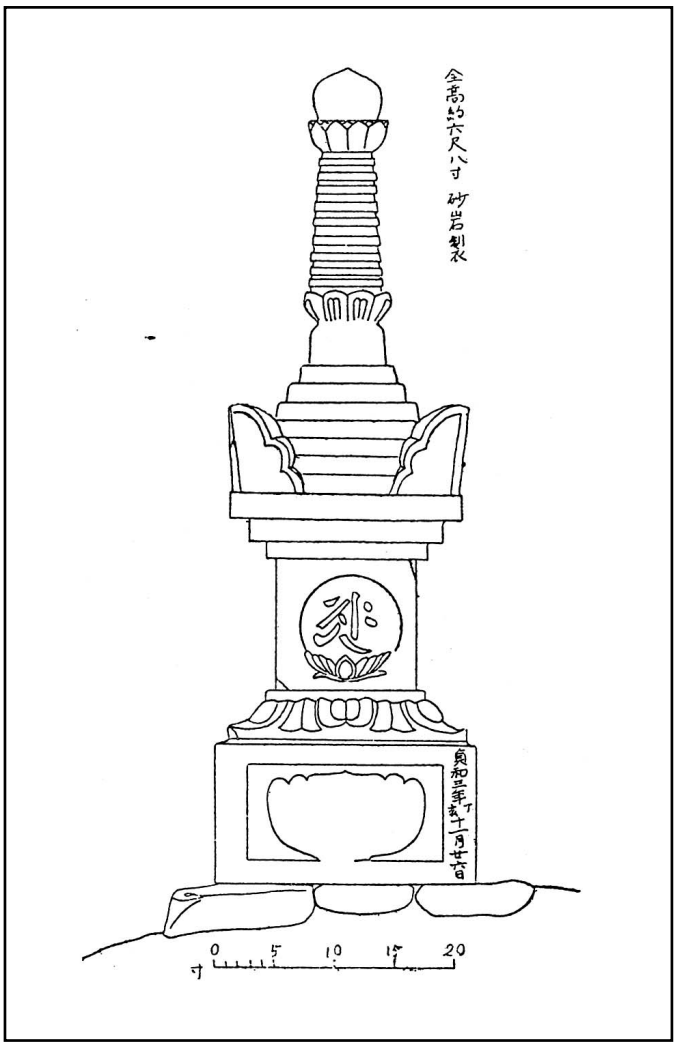
北畠具行墓

北畠具行墓は、高さ約2mの砂岩製宝篋印塔（ほうきょういんとう）で、高さが約80cm程の墳丘状の盛土の上に建てられています。遺存状況は良好で、台石に「貞和三年一月二六日」の銘文が刻まれています。これによれば、具行の死の16年後に建立されたことになります。この塔の建立者は、具行処刑の際に介錯をつとめた、田児六郎左右衛門尉とされていますが、この銘文自体が追刻の可能性もあり、明確な建立の時期は不明です。ただ、塔の全体の形式としては、近接する清滝寺にある、京極導誉の宝篋印塔と類似しています（学習シートNo.032）。

この遺跡が史跡に指定されたのは、昭和5年のことで、第2次世界大戦への道を日本が歩みかけた頃です。



北畠具行墓



北畠具行墓実測図

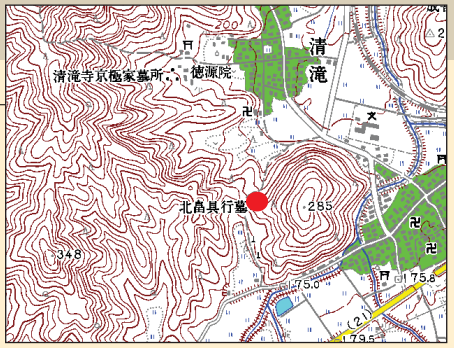
関連する文化財

清滝寺京極家墓所（山東町）	学習シートNo.032
蓮花寺境内（米原町）	元弘元年(1331)六波羅探題官軍に追われた北条仲時以下432人が自刃した寺院
勝楽寺城跡（甲良町）	京極導誉の居城

もっと深く知りたい

山東町柏原宿歴史館　　☎0749-57-8020　坂田郡山東町柏原2101

北畠具行墓へのアクセス　　JR東海道本線　柏原駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔滋賀県史蹟調査報告１～12〕滋賀県保勝會

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　　平成16年3月